

安全に検査を受けていただくため、必ずお読みください。

健康診断として安全の確保、および該当項目によっては検査精度・診断精度が著しく低下することから、ご理解をお願いいたします。

1.胃X線検査(バリウム)実施不可

※事前に胃内視鏡検査への変更または胃X線検査(バリウム)キャンセルのご連絡をお願いします。

過去に胃X線検査を受けたことがある方でも、下記に当てはまる方は受けられませんので事前にご連絡をお願いします。ただし、主治医の許可があれば実施可能な場合がありますので、主治医にご確認ください。該当項目や団体契約により、胃内視鏡検査への変更ができない場合がありますのでご了承ください。

- ・妊娠中またはその可能性のある方
- ・透析中の方、腎臓病や心臓病の治療中で水分制限のある方
- ・炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病・憩室炎など)や上部消化管疾患で治療中の方
- ・過去1年以内に外科手術《頭部、胸部(心疾患「カテーテル治療も含む」、呼吸器疾患等)、腹部(帝王切開や胆石症などの腹腔鏡下を含む)、整形領域》をした方(内視鏡的ポリプ切除は1か月を経過すれば検査可)
- ・過去1年以内に虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)や脳血管障害(脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血)を発症した方
- ・脳圧亢進でシャント中の方
- ・強い腹痛などの症状のある方
- ・血圧が180/110mmHg以上の方(収縮期血圧160mmHg以上の場合は医師が問診の上判断します)
- ・3日以上排便がない方(習慣性便秘の方、前回バリウム排出できず医療機関を受診した方含む)
- ・過去にバリウムを誤嚥したこと(気管末梢まで流入した、検査中止となった等)が数回ある方
- ・体重135kg以上の方(装置の使用制限による)
- ・バリウム、発泡剤、下剤に過敏症(アレルギー)のある方(蕁麻疹、息苦しさ、手足が冷たくなる)

2.主治医の許可があれば実施可能

- ・腸閉塞、腸ねん転の既往がある方(または現在その疑いがある方)
- ・出産後2か月未満の方
- ・喘息の発作時および頻繁に発作がある方、慢性呼吸器疾患で加療中の方(在宅酸素療法の方は実施不可)
- ・メニエール病の方
- ・慢性虫垂炎の既往があり虫垂切除を受けていない方(バリウムによる虫垂炎発症のリスクがあります)
- ・過去1年以内にてんかんの発作がある方

3.内服薬(投薬)について

①糖尿病の方

- ・検査当日に糖尿病の治療薬を服用された方は、低血糖状態では安全が確保できないため、検査を実施できません。ただし、検査当日に服用をやめる場合は、必ず主治医に確認してください。
- ・インスリン注射をご使用の方は、当日の単位数に関して主治医に確認し、低血糖予防のため、ブドウ糖など糖類をお持ちください。

②循環器疾患の方

- ・心臓病、不整脈、高血圧の内服薬は、予約時間の2時間前までに200cc以内の水で服用してください。

③その他の内服薬は必ず主治医に確認してください。

4.その他(危険と判断した場合は検査を中止させていただくことがあります)

- ・介助や特殊な対応が必要な方(検査台上でスムーズに体の向きを変えることができない、バリウムコップを自分で持って飲めない、自力で立てない、視覚障害、聴覚障害など)
- ・医療機器(インスリンポンプ、持続グルコース測定器、刺激装置など)は、X線の影響を受けることがあるため取り外し可能な機器は、検査前に必ずご自身で取り外しが必要です。取り扱い方法や不明点、取り外せない機器については主治医に確認してください。
- ・発泡剤で迷走神経反射を起こしたことがある方
- ・言葉が通じない(日本語も英語もわからない)方、理解困難な方

○注意点

- ・検査実施後は下剤を飲んで、バリウムを排出する必要があります。便が出ずにバリウムが腸の中で固まると腸閉塞や消化管穿孔、腹膜炎など重篤な合併症のおそれがあります。便の排出を促すため、検査後できるだけ早く食事を摂り、終日こまめに水分を摂るようにしてください。通常は検査当日就寝前までに白っぽい便が排出されます。通常便が出るまで確認してください(トイレに排出したバリウムは流れにくい大量のお水で流してください)。
- ・翌日になってもバリウムを含む便が少量しか排出されない場合や、お腹が張りつらい場合は、必ず当クリニックまたは最寄りの医療機関にご相談ください。